

事務事業名	ノーコードアプリケーション活用実証事業					事務事業No.	212 - 18						
1. 基本情報													
担当部	担当課		担当係		作成者職名	作成者氏名		所属長職名	所属長氏名				
行政経営部	行政管理課		行政管理担当		主査	野村 俊朗		課長	鐘ヶ江 孝二				
施策体系	総合計画	政 策	2	行政経営									
		施 策	1	効果的・効率的な行政経営の推進									
		基本事業	2	情報システム整備の適正な推進									
	その他の計画		個別計画		飯塚市地域情報化計画								
根拠法令・条例・要綱等	-												
事業開始年度	令和5年度		事業終了年度		継続		事務事業類型		ソフト事業				
実施手法	全部直営		補助金等の支給		なし		実施計画期間		令和5年度～令和7年度				
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）													
概要	各部局におけるデジタルシフトのスピードアップ・システム開発に要するコスト削減、環境変化への柔軟な対応、各部局の自律心や職員のデジタルスキルの向上、日常業務における業務改善を目的としてノーコードアプリ作成ツールの導入し、作成したアプリを実務において活用することで、業務改善及び業務効率化につなげていくもの。												
対象	働きかける相手・もの	職員											
手段	方法・働きかけ（活動指標）	ライセンス付与、作成方法・活用方法事例等の紹介											
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	職員自らアプリを作成できるようにする ノーコードツール活用に伴う業務負担時間の縮小											
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）													
指標名		単位	指標の説明（算式等）			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
ライセンス付与数		件	ライセンスを付与した数（本年度は無料キャンペーン活用）			145	74	72					
作成方法・活用方法事例等紹介回数		回	作成方法や活用方法等の事例を全庁掲示板にて発信した回数			3	4	6					
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）													
指標	ノーコードアプリ作成ツール導入	単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		件	1		目標値	1	1	1					
説明	ツール導入件数（検討後の変更含む）	方向性	達成目標年度		実 績	1	1						
		維持	毎年度										
指標	アプリの利用部署数	単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
		課	全課		目標値	62	62	36					
説明	アプリを作成し利用を行った部署数	方向性	達成目標年度		実 績	8	29						
		増加											
指標		単位	達成目標値			前年度実績	本年度実績	次年度見込					
					目標値								
説明		方向性	達成目標年度		実 績								
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）													
経費区分	一般会計		政策的経費				特別会計	-					
予算科目・事業	会計	1	一般会計		款	2	総務費	項	1	総務管理費	目	1	一般管理費
	大	5	行財政改革推進事業費				中	10	ノーコードアプリケーション活用実証事業費【政策】 他 0 事業				
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績(千円)		本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)			次年度予算(千円)				
	正職員	0.28	人	2,225	0.27	人	2,199	利用ツール変更に伴う使用料の増	0.16	人	1,304		
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
	1級フル	0.00	人	0	0.03	人	111		0.00	人	0		
	1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0		
2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00		人	0			
人件費計(A)		2,225		2,310					1,304				
事業費	直接事業費(B)	646		856					1,027				
	総事業費(A+B)	2,871		3,166					2,331				
直接事業費のうち の主な歳出内訳		使用料及び賃借料		569		806		1,027					
		報償費		0		50		0					
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)		0		0		0						
	国・県支出金		0		0		0						
	市債		0		0		0						
	一般財源		2,871		3,166		2,331						
その他()													

6. 事務事業の事後評価★		
評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価	やや高い	少子高齢化社会が進み、市の財源確保が困難となってきた中、これまでのようにシステム導入等を民間委託する前提の考えではなく、自前で簡単に作れるノーコードツールを活用し内製化に取り組むことで、ローコストでのノーコードツールを活用したシステム構築が可能となることから、本市として本事業に取り組むことは妥当である。
効率性 評価	やや高い	民間委託の場合システム改修に時間を要するが、ノーコードツールは職員自らが業務に合った修正を「いつでも」実施でき、修正後は「すぐに」利用できる状況となり、また利用を続けることで更なる改善点を検討することが可能であり、より各課の業務内容にマッチしたシステムに修正して精度を高めることも可能なことから、効率性は高いと言える。
有効性 評価	やや低い	職員のデジタルスキルの向上に寄与し、その結果これまで民間委託に頼りがちだったシステムの導入等に関して、内製化を図ることでコストダウンが図られるが、より有効的に活用するためには活用の幅を広げるプラグインの導入が必要である。活用の幅が広がることで、限りある市の財源をより効果的に活用する一歩に繋がるほか、各情報がデータで蓄積されることにより、集約等に関する職員の業務作業時間削減に寄与すると考えられる。

7. 前年度評価時の計画と実績			
前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	ノーコード推進協会のノーコード宣言シティブログラム（無償でのオンライン研修等）及びWeb上の民間企業提供の無償プログラムや動画サービスを毎年度有効活用することで、ノーコードツールの認知及び操作研修を毎年度実施を行う。
一次評価	拡充		
	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	導入したノーコードツールをより活用するため、令和6年度に各課のアプリ作成に必要な情報収集を行い、活用の幅を広げるプラグインの導入の検討を進め予算要求に繋げる。（費用感：プラグインにより異なるが他自治体等でも導入例が多いWebフォームブリッジ月額6,600円/ドメインから）
前年度改善策に対する実績		★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入	

ノーコード推進協会のノーコード宣言シティブログラムを活用し、ハンズオン形式を含む集合型研修を年間5回実施。結果、各部を基本に作成したグループごとに業務の効率化に向けたアプリを作成し、作成した意図やアプリ化したことによる効果などを概要にまとめたうえで、本研修の最終回には各グループによる発表会を実施することができた。

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と運動）★	
〔成果〕	ノーコード宣言シティブログラムを活用し、実際に操作体験を行うハンズオン形式の研修を行えたことで、各グループごとに考えたアプリを作成することができたほか、本年度より一部の課ではアプリ化することで業務の効率化が図れており、参考事例として庁内に発信を行うことができた。
〔課題〕	庁内展開を図るには、庁内での成功事例や他市の成功事例等の共有、定期的なツールの使用方法等の発信が重要となるため、次年度以降の庁内展開を拡大していく上でも、引き続き、情報の発信方法について他の先進自治体を参考に検討する必要がある。

9. 今後の事業の方向性と改善策	
成果の方向性	〔理由〕 ノーコードアプリに適した業務を精査し、活用が見込めない部署のライセンスを削減するため、利用部署は縮小となる。
縮小	
コスト投入の方向性	〔理由〕 ライセンス数等の精査を行うため、コストは縮小となる。
縮小	

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	YouTubeなどの動画サービス、民間企業提供の無償プログラム等を活用し、ノーコードツールの活用方法を庁内に浸透させていく。他自治体への聞き取りを行い、有効性のある無料のプラグインを導入することで活用の幅を広げる。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	－

評価変更理由	成果の方向性	ノーコードアプリに適した業務を精査し、活用が見込めない部署のライセンスを削減するため、縮小。 ライセンス数等の精査を行うため、コストは縮小。
	縮小	
	コスト投入の方向性	
	縮小	